

## 新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマ

< 協議会の基本コンセプト（案） 2010.04.19 第1回協議会 >

### 【メインテーマ】

‘まちに溶け込む次世代型市民施設’としてイメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする。（策定委員会との共通テーマ）

‘（仮称）新武蔵野クリーンセンター’は、環境面、安全面、効率面、そして周辺地域のまちづくり面などについて、そのいずれをも保障しつつ、現クリーンセンターよりさらに市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設であるべきとする。

**周辺地域のまちづくりは、環境と共生する循環型社会を創造する都市を構築する。**

### 【個別テーマ】

#### 1. 施設・周辺整備の考え方

##### (1) 施設整備

- ・ 環境をテーマとした施設づくりを目指す。
- ・ 市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設づくり
- ・ 地域に開かれた施設づくりを目指す。  
都市施設としての価値を高める。

##### (2) エリア整備

- ・ 新施設、野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターが融合し、周辺地域のまちづくりの核となることを目指す。
- ・ 積極的な緑化や自然エネルギー利用、明るく開放的な施設づくり、ユニバーサルデザインの採用など、市民に親しまれ、環境にやさしいまちづくりを実現する。

##### (3) 周辺のまちづくり

- ・ 市役所北エリアを中心に、市役所、総合体育館、NTT 研究所、住宅団地、周辺住宅地を含め、自然環境を共生したまちを形成する。

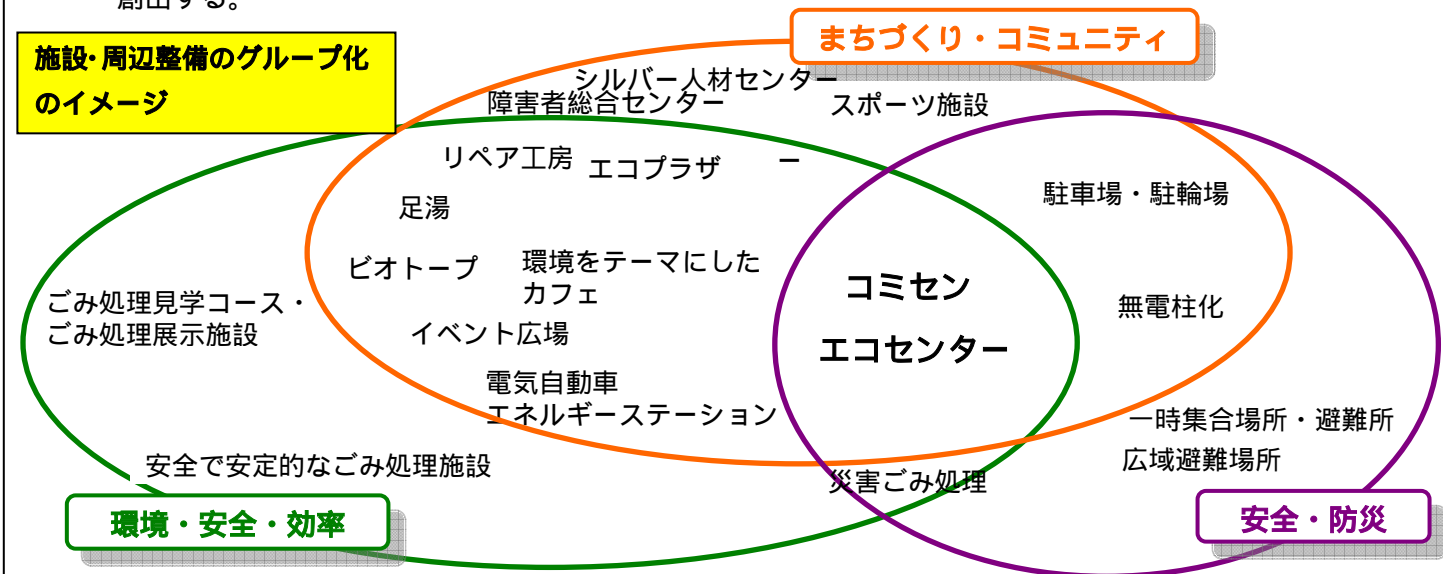
#### 2. 安全で安心な施設づくりと運営

- ・ 新施設は安全で安定的なごみ処理施設を実現する。
- ・ 生活環境への影響をださないように、生活環境影響調査を実施し、将来の予想を行い、安全性を確認する。
- ・ 稼働後も安全な施設であるため、運営協議会方式を継続、発展させる。

## 【協議会の進捗に伴う「個別テーマ」の具体化】（案）

‘まちに溶け込む次世代型市民施設’を実現するための個別コンセプト

- 施設・まちづくりの基本的な考え方 “エコ” でつなぐ周辺まちづくり -  
今回の施設・まちづくりをより広い視野で捉えて、市役所北エリア・緑町三丁目・NTT 研究所・体育館・市役所・緑町パークタウンなどを含む周辺一帯を、環境共生型の都市生活を実現するシンボルゾーン（エコロジー・ゾーン）と位置づけて、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。
- (1) 環境にやさしい施設「次世代型市民施設（エコセンター）」をつくる...【環境】環境・安全・効率（省エネ）
  - ・ クリーンセンターを「エコセンター」と位置づけ、廃熱を可能な限り再利用することを実現する。
  - ・ 地球温暖化を考える「エコプラザ」を設置する
  - ・ 新武蔵野クリーンセンターからの排ガスや騒音・振動、悪臭等による周辺への影響の軽減を図る。
  - ・ クリーンセンター周辺は、本市において緑多い地域であり、さらに緑の環境整備を進める。
- (2) 新クリーンセンターと防災 .....【防災】
  - ・ 新武蔵野クリーンセンター周辺と広域避難場所
  - ・ 新武蔵野クリーンセンターと災害ごみ処理
- (3) クリーンセンターを核とするまちづくり .....【まちづくり・コミュニティ】
  - ・ 緑豊かな「環境共生・生活文化創造都市むさしの」の中核となるシンボルゾーン
  - ・ 地域力を活用したまちをつくる
  - ・ 市民の様々な活動に寄与するスペース・エリアとする。
  - ・ 新たなライフスタイルや活動の後押しができるような仕組みをつくる。
  - ・ 新たな雇用創出に寄与するようなまちをつくる。
  - ・ 新クリーンセンターは地域に開かれたオープンな施設・エリアとする。
  - ・ スポーツ施設やコミセンと周辺住宅をつなぐ、多くの市民が触れ合うことのできるコミュニティスペースを創出する。



新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマ

テーマ	大項目	中項目	課題・提案	想定施設整備内容	想定エリア整備内容	想定周辺整備内容
環境 安全	新クリーンセンターは安全で安定的なごみ処理施設を実現する。		新クリーンセンターからの排ガスや騒音・振動、悪臭等による周辺への影響の軽減を図る。	排ガスの自主規制の強化（全国トップレベル）		
環境 エコ	クリーンセンターを「エコセンター」と位置づけ、廃熱を可能な限り再利用することについては是非とも実現する。 低炭素社会のモデル（例：つくば環境スタイル）	新クリーンセンターで生み出したクリーンエネルギーの利用	発電を利用した電気自動車のエネルギーステーションを設置し、公用車やムーバスを電気自動車として運行する。 市民が使える電気自動車貸出し（荷物を運ぶ、障がい者、高齢者の送迎など） 熱利用において、限りあるものなので、効率よく発電に使って。 太陽光発電よりも風力発電はどうか。	ごみ発電、太陽光発電、風力発電等 電気自動車の利用		
		地球温暖化を考える「エコプラザ」を設置する	リペア工房＋販売所 エコ関係のネットワークの拠点 環境について楽しく学べる体験できる場所 ごみ処理やリサイクルの仕組みが楽しみながら理解できる展示施設や見学コースの設置 安全策が見える施設づくり	リサイクル工房、学びのスペース、見学者ホール		
		エコな周辺まちづくり	低炭素型社会のモデル地区と位置づけてはどうか。あえて、ごみを燃やしている地域において、高い目標を立ててCO2削減に望んでいくのはどうか。送電ロスの少ない電線地中化も盛り込んで良いのではないかと。 街路灯を太陽エネルギーやクリーンセンターの発電により生み出された電気を利用したものとする。			クリーンセンター周辺の無電柱化 新エネルギー利用の街路灯
環境 自然環境	クリーンセンター周辺は、本市において緑多い地域であり、さらに緑の環境整備を進める。	クリーンセンターを中心としたエリアの緑環境整備	センターの周りに花の回廊を作ってほしい 緑のスペースの充実 まわりにお花（植物）を飾ってほしい まわりに植物や花を植えてほしい 現在ある野球場及びテニスコートの場所を、四季の花を鑑賞できる公園にして、公園内の歩道は、車椅子でも通れる余裕をもつた道幅とし、武蔵野市の新名所とする。花を鑑賞することは、子どもの情操教育につながり、全年齢層の癒しにもなると考えられる。また、市民の憩いの場、ふれあいの場となり、崩壊してしまった地域社会を復活させる効果も考えられる。 ビオトープ	エリア整備のさらに緑化の増植 ビオトープ		
		クリーンセンター周辺の緑環境の充実	千川上水沿いの都市計画道路整備のあり方の検討とともに、遊歩道の整備や緑の管理について検討を行う。 市の資材置き場を撤去し、公園として整備する			千川上水整備計画

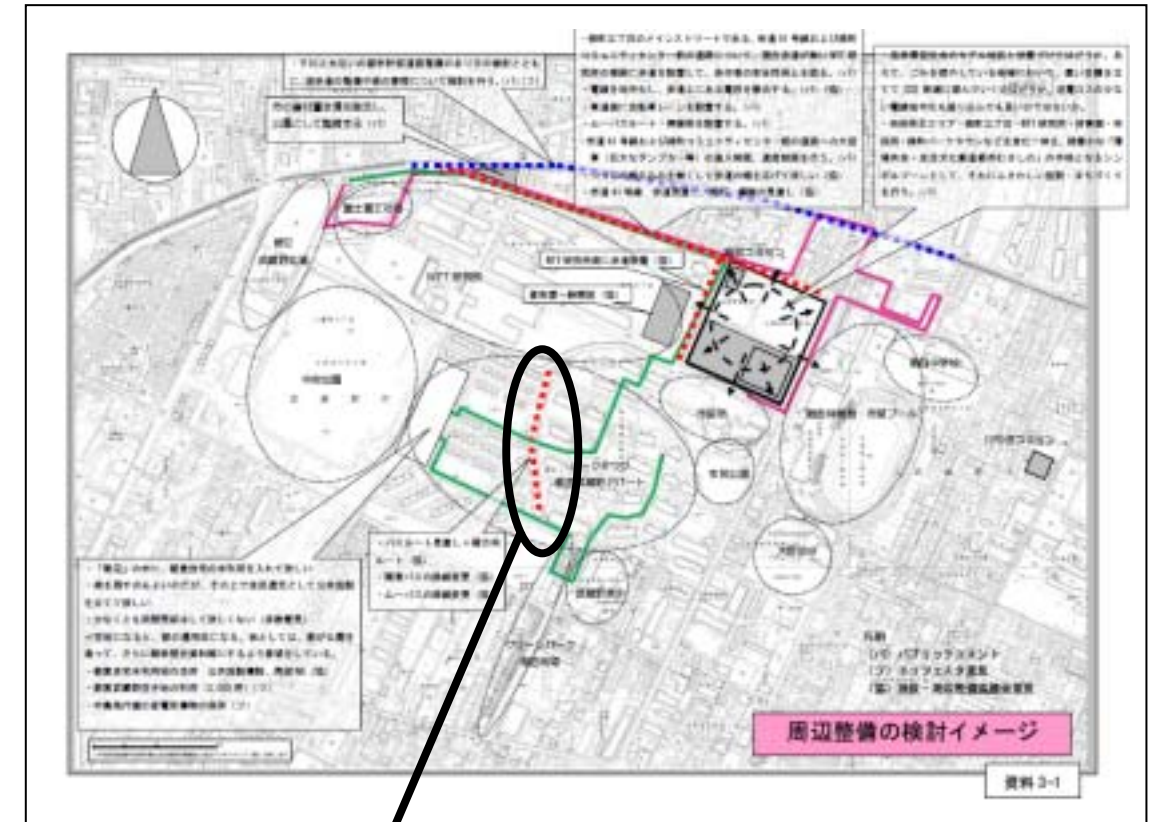
テーマ	大項目	中項目	課題・提案	想定施設整備内容及びキーワード	想定エリア整備内容及びキーワード	想定周辺整備内容及びキーワード
防災	クリーンセンター周辺は市役所、NTT 研究センタ、中央公園、パークタウン一体が広域避難場所である。 防災センターを中心に災害時に拠点となる。	広域避難場所としての対応	防災センター、NTT 研究センタとの連携 防災避難路として重要な 41 号線及び防災センターへのルート整備（防災上電線類地下化の促進は優先順位が高い）	広域避難場所		
		クリーンセンターと防災	野球場地下 防災倉庫設置、防災拠点化	災害ごみ処理		
まちづくり・コミュニティ ：まちづくり	クリーンセンターを核とするまちづくり 周辺の公園と一体になった、明るく、入りやすい雰囲気の建物	環境共生	市役所北エリア・緑町三丁目・NTT 研究所・体育館・市役所・緑町パークタウンなどを含む周辺一帯を、緑豊かな「環境共生・生活文化創造都市むさしの」の中核となるシンボルゾーンとして、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。	緑豊かなまち <b>環境</b> ：自然環境へ		
		快適で歩きやすいまち	市役所北エリア側の歩道の拡幅 クリーンセンターの周りは歩きやすい そんな歩道 市役所側から北側に抜けられる遊歩道の設置		周辺歩道整備 41 号線の歩道整備 新クリーンセンター内遊歩道整備	
		交通	タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上 バスルート見直し+横方向ルート（施設利用を高めるためのムバスネットワークの改良） 駐車場の相互利用調整により、新たなオープンスペースを生み出す（コミュニケーション）		240 号線の道路整備とバス路線追加	
まちづくり・コミュニティ ：コミュニティ	地域力を活用したまちをつくる 地域に開かれたオープンな施設として、市民にとって入りやすい場所にする。 多くの市民が使えるよう魅力的で利便性の高い公共施設エリアを目指す。 既存の環境、資源、施設を効率よく利用し、ムダを少ない都市像を示す。 新たな市民施設の建設により市民の様々な活動に寄与し、新たなライフスタイルや活動の“後押し”をする。	コミュニティ	地域住民が気軽に利用できるカフェや小さい子供連れで利用できるスペース（自家製ハーブ茶サービスコーナー、賞味期限切れのお店、生ごみ堆肥を使った野菜やハーブを利用、余熱利用パン工場） 足湯 イベント対応ではなく、日常的なものとして使われる施設。例えば、クリーンセンターの蒸気を利用して衣服乾燥が出来るコインランドリー的なもの。 ごみを中心とした様々な活動を地域通貨で行う。	コミュニケーション・カフェ 足湯		
		集う（イベント広場）	フリーマーケット 新クリーンセンターに、他の施設にはないスペース（工房、屋根のある広場）を用意し、相互の利用を高める。 クリーンセンターと市役所と道を含んで、一体的にイベントができるスペースを創出する	イベント広場		
		コミュニティの場	緑町コミセンの課題（会議室が足りない、屋内スポーツの練習場（バドミントン、卓球など）や駐輪場を、エレベーターを付けて欲しい） ホール・共有スペース（とりあえず場所を確保することも大事。集まってきて何かが出来る場所。自由に発表をしたり。立地の強みとして、市役所が近いというものがある。単純に、100 m <sup>2</sup> 欲しい！など。）（協） 周辺住民が利用できる会議室や集会施設の設置 都営住宅未利用地の活用（中島飛行機の変電所建物の保存）	緑町コミセンの利用状況と新クリーンセンターの施設利用 周辺地域の会議・集会施設の箇所と利用状況		
		就業支援	従来のシルバー人材センターが行っているリサイクル機能だけではなく、環境をテーマにした社会的起業や若者の就業支援につながる機能を持たせる。（パ） 余熱を効率よく利用したパン工房などを設置して、多くの人が集えるようにするとともに、障害者総合センターと連携して運営することで、障害者の雇用機会を創出する。	障害者総合センター、シルバー人材センターとの連携		
	スポーツ施設との連携	観客席をクリーンセンターの北側外壁（屋根）でつくる。 野球場のイベント開放、子ども達の遊び場としての開放				

## 市道第240号線整備目的

都営住宅の建替えに併せて、市道第240号線の道路を

以下の目的で改修する。

- 北側交差点及び南側交差点の線形改良により、安全性の向上を図る。
- 路線バスの運行により高齢者等の利便性の向上を図る。
- 歩道の新設や歩車道分離など、歩いて楽しい道づくりを図る。
- 緑の回廊の機能の確保や緑の連続性など、緑豊かな環境形成を図る。



- ・高齢者の安全性の確保、及び利便性の向上としてバスルート及びバス停留所を新設する。各バス停留所にはベンチを設置する。

